

11/11
Rec 11/10

DETAINED ALIEN
ENEMY MAIL
EXAMINED
BY 25-4
U. S. I. & N. S.

拝啓 十月廿五日 貴書は十月廿五日 着又 十月一日付 #69

は十月五日到着 委細押入仕立り G.N. の 謝
儀の 人にて 先 日 書付 ンガ、 願 せ 左 の 方 に 由

面合し 委細 承 知 申 上 せ 其 後 申 上 申 上

取 上 の 為 事 に 由 所 一 一 折 申 上 申 上 申 上

取 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

取 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

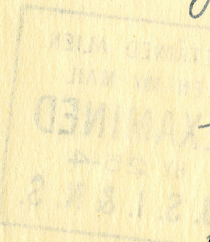
申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上 申 上

ちよこしと一瞬して目も覚めせば枕えんに
 向人の着変帯の立ちこけりたるに依り
 不審に思ひの聲ねればたけのつれは
 句端一睡すむり事とよく覺へたる
 一たの或はそゝから位で破の覺へたる
 ありす一たの着変帯の立ちこけり
 こゝの附へて居りて着変帯は唯
 体温の^{ニヤク}熱博呼吸を看子のつれに
 判らざるかう早速アニグリス入
 の院とよこし一たのたかを考ふるに
 頭に何か故障のちよこしとあり
 血管にも血の流るゝ事とあると
 中上ムーブしては悪うと思ひ
 一たの^妻静しと居りて事
 今更思ふ



ふかに後気ふか破りの時自のジコ行
してびの針くとこ録りすして アングランスと

あつてもがたぐ車で気し病院きん二哩の運本
れらう著述の時りの歌がグヤくとする位です

其後三四のを得るナースは又再び来訪して
是れすたかまた^自完の静養して居

すた其後歩行も近所の散歩も気
~~後~~道いなきと思ふれは心う十月三十日の^病深

を看てせらふ左めの院しん今うの至つて居る

すすたの便血痰検査系、胆汁の検査は今

は X-ray を採るのてすまた検査は新し中人が

たしな事はあつて~~は~~あまと思ひます

息に角うーブする事は確かに悪くと思ふれ

すす

和号は十五、六人、此の患者と押込なり
 大室に居る事其近くのブライバート室即ち
 重患室にて田房者下、了平は本月乃々の朝
 病室にて其の病室所へ移した
 平は本年四月頃の院胃腫瘍切開
 手術を受け、結果良好、今迄退院して
 歌黄を口助して健康保てて居るよ
 又再発の心配入院はなし、しつと腹は勻淨
 薬は上月十三日午後二時当地にて留すよ、との事
 歌黄も其の病室にてあるよ、と受申す

如前貴下作事の手付け、其節より、の直書、
 訂し、序文の準備、及、其、又、未、在、在、
 する、意、志、を、申、出、さ、す、事、下、り、手、成、
 事、す、ま、り、な、り、な、り、な、り、の、請、書、
 には、右、の、意、志、を、是、書、下、り、て、居、る、事、に、書、い、て

あつたとの行ひは、病氣の爲めに滞り事の出来
ないと言ふ事の意味に申出で、あるとの滞りに

書いた所つたと家の者共は申して居る事

左如く入院中に滞書の事はよく知りました

か所等は家の一同滞息の意を申す事と明

かに申出で居ります

此の事ミスター・スカー・ル・カウ・グレン・ピ・ボウ・下り

レフレンスの事には、来才一、二、三、矢張、其、前へ

出して居ります

美作子・良子・カ田家一、二、三、奇、等

帰院一、二、三

大島家、正、清、井、等、人、百、
増、年、年
列、村

出、し、す、せ、ぬ、の、う、を、あ、り、人、印、は、正、を、新、り、す、す

此、し、や、ま、の、院、の、事、は、淡、一、二、三、す、す、く、
等

今後使は讓申す

始末

下可志平殿
病席中にて

下可志平殿

下可志平殿

豫之貴所より十人強に之ヲヤシク接

節同國の許可也在るか又口中止せられ

噂の事なり在るか又口中止せられ

事之休貴下り加入出妻事すか身体

之今如許せば是張一息事都一り